

資料

「特別の教科 道徳」における教材研究に関する一考察
—「教科書検定」から見る教科書導入過程の実態—田中真秀*¹ 佐久間邦友*²

要 約

本論は、平成30年度から小学校において「特別の教科 道徳」が実施されたことによる教科書の策定により、「道徳」の授業がどの様に変化するのか否かを明らかにすることを目的とし、2点のリサーチクエスチョンを提示した。1点目は、「特別の教科 道徳」による教科書の内容は、出版社独自の見解が示される一方、一定の水準が維持されているのではないかと。2点目は、「特別の教科 道徳」として教科書が策定されたことによる教師の教材研究に対して出版会社がアドバイスを行っている実態があるのではないかと。結果、教科書採択を受けることで一定の水準が維持されつつも、出版社独自の見解を教材や題材を用いて示していることが明らかとなった。2点目は教師の教材研究を手助けする方策として、出版会社がHPや「虎の巻」を用いて教材の意味や必要性について示していた。今後の課題としては、実際に学校現場で「特別の教科 道徳」の授業がどのように展開されているのか、その時の教師の課題について明らかにすることである。

1. はじめに

本論は、平成30年度から小学校において「特別の教科 道徳」が実施されたことによる教科書の策定により、「道徳」の授業がどの様に変化するのか否かを検証することを目的とする。

そこで2点のリサーチクエスチョンを提示する。1点目は、「特別の教科 道徳」による教科書の内容は、出版社独自の見解が示されている一方で、一定の水準が維持されているのではないかと。2点目は、「特別の教科 道徳」として教科書が策定されたことに対する教師の教材研究に対して、出版会社が教材研究に対する示唆を行っている実態があるのではないかと。

リサーチクエスチョン1点としては、この度、はじめて教科書として出版された道徳の教科書の実態を、教科書検定の際に用いられる各出版社の示している「教科書編修趣意書」を比較することで実態を明らかにする。2点目としては、「特別の教科 道徳」として道徳が教科化されたことにより教師が教科書を用いた教材研究を行うことになるが、教科書出版会社が教師の教材研究に対するアドバイス(フォロー)を行っているのではないかとという点に焦点を当て

る。教科書出版社のアドバイスによって、道徳が教科化される上での教師の教材研究への戸惑いが減少しているのではないかと推察する。

このように、「特別の教科 道徳」が実施されることになり教科書が策定されたことから、「道徳」の授業がどのように変化するのであろうか、今後の教材研究や指導の在り方に対する検証を行う。

2. 道徳が教科化されるに至っての懸念

道徳が教科化されることの懸念は様々なところで議論されている。例えば、「価値観の押し付けにつながるのでは」ないか、また一部の間では、教科書を用いることは戦前の国定教科書を用いて「修身科」が行われてきた時代に逆戻りするのではないかとという懸念があった。また、評価も他教科と異なり、数値ではなく「授業中の会話や姿勢、感想文から、子どもの成長ぶりを記載」することとなった。こうした変化に対して「愛国心が評価され、入試に影響するのか」といった懸念がある¹⁾。この点については、実際には道徳の評価は数値を使用せず、記述式を行うことに特徴があり、入試で用いることはないとし

*1 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科

*2 日本大学 文理学部 教育学科

(連絡先) 田中真秀 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

E-mail : mahotanaka@mw.kawasaki-m.ac.jp

ている。

このように、道徳が教科化されることにより、評価の観点の難しさが、また評価の基準が示されるとすると「価値」の押し付けになるのではないかと、一方で基準が示されないと評価が困難かつ抽象的になるといった懸念があった。これらの議論はかつてから教育学では行われているものである。例えば、人間の経験や科学的知識を形成するための「陶冶」は人間形成に関わる形式陶冶と教科内容の修得に関わる実質陶冶に分類できるが、道徳の場合、かつては徳目主義として「徳目」が教示できるものとして捉えられていた考えがこれにあたる。また、感情や意思を尊重し人間形成を図ることが「訓育」であり、昨今の道徳教育は「訓育」の要素が強く意識されていた。しかし、教科書が策定されることは、基準を示した上での評価が必要となり、かつての「徳目主義」に戻るのではないかと、といった議論もされている。

さて、「特別の教科 道徳」として教科書が策定されるに至っては、教科用図書検定調査審議会²⁾が以下のようなまとめを行っている。バランスのとれた多様な教科書を認め、検定教科書を導入する。導入にあたり、検定基準として「①学習指導要領において示されている題材・活動等について教科書上対応することを求める規定」、「②学習指導要領における教材の配慮事項を踏まえた規定」、「③道徳科の内容項目との関係の明示を求める規定」を示しており、学習指導要領と照らし合わせて適切であることが求められた。また、教科書検定は(1)学習指導要領の内容に照らして適切かという「準拠性」、(2)取り上げる題材の選択・扱い等が公正かという「公正性」、(3)客観的な学問的成果や適切な資料等に照らして事実関係の記述が正確かという「正確性」といった3点が基本となる³⁾。例えば、政治や宗教の扱いや特定の企業や個人・団体の取り扱いについては慎重である必要がある。これは、公教育において中立性を確保することにほかならない。同時に、これまで民間の発行者から刊行されてきた副読本、教育委員会が作成してきた道徳に関する地域教材、文部科学省が作成した「私たちの道徳」といった教材の良さを生かすこと、家庭や地域社会と連携した道徳教育を行うことができる内容とすることが求められた。

3. 方法と調査対象

2017年に教科書検定を合格した小学校の道徳の教科書は24点66冊である¹⁾。2019年度から使用が開始される中学校の道徳の教科書は8社が申請し全30冊

が合格した⁴⁾。検定に合格した教科書は読み物中心に構成され、登場人物の心情や自分の考えなどを尋ね、生徒同士の話し合いを促している傾向が高い。いじめ問題については、友人同士のすれ違い、無視やいやがらせに対する当事者の心の葛藤、SNSが舞台となるいじめについても取り扱っている。

このように道徳が教科化され、教科書が導入されることとなった。道徳が教科化されたことによる授業方法について、平成28(2016)年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議が発表した『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)』によれば、「単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく道徳科の質的転換を図るためには、学校や児童生徒の実態に応じて、問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開することが必要」と述べており、読み物としての道徳から、問題解決としての道徳への変容をしているようである。例えば、今まででも行われてきたが、登場人物を児童が演じる「役割演技」によって実感として理解することを意識する、生徒同士の話し合いを通じて他者の意見を知り多角的な視点を持つようにできるようになるといったことである。中には、教科書に収録した物語の結論まで読まないで、その後について児童生徒に考えさせることに重きを置いている教員もいる等、授業形態を模索している場合もある。

このような状況のもと、今回は小学校の道徳の教科書に焦点を当て、出版社がホームページ上等で資料や情報を公開している情報について比較を行う。ここで、出版社のホームページを用いた理由としては、以下の2点が挙げられる。1点目としては、教科書そのものを比較することによる限界に対する対応ができることである。本論は、教科書導入期における、出版社の意図による教科書作成からの教材研究を取り上げるため、教材研究や資料への出版社の意図をくみ取るべく、出版社の提供している資料を比較することとする。実際に教科書の詳細を比較していないという課題も残るが、出版社の教科書策定段階を検証するため、ホームページで情報公開している資料が適切だと判断した。

2点目としては、実際に教師が教材研究をする際に、自身が所属する学校が使用している教科書以外の資料を参考にする場合がある。その際に、他出版社の情報をホームページ上等で検索することが想定される。同時に、教科書策定の前提条件として、各出版社が文部科学省に提出した「教科書編修趣意書」^[25]をもとに比較を行う。なお、「教科書編修趣意書」を用いたことに対しては、「良いことばかりが書か

れすぎていて」評価の対象とならないのではないかという課題もあるが、今回はあくまで同じ意図をもって「公表されたもの」を比較することに焦点を当てているため、「教科書編修趣意書」が適切であると判断した。

4. 「特別の教科 道徳」の実態

4.1 「教科書編修趣意書」による比較

4.1.1 「教科書編修趣意書」とは何か

「教科書編修趣意書」²⁵⁾とは、教科書の編集上特に意を用いた点や特色などを教育基本法や学習指導要領等に照らして分かりやすく説明することによって、編集の趣旨や基本方針などを示したものである。文部科学省のホームページには、「教科書発行者が作成した検定関係資料でもあることから広く国民や学校教育の関係者などに対して教科書の内容についての理解を促進すると共に、採択関係者における十分な調査研究の推進、また、教科書発行者への公正な宣伝の機会を提供する目的」で「教科書編修趣意書」が公開されている。

本論では、特別の教科道徳の教科書を発行している東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの8社を取り上げて、「編修の基本方針」を

中心に述べていく。また表1は「編修の基本方針」の要点をまとめたものである。表2は「編集上の特色」の要点についてまとめたものである。

なお、文部科学省の「教科書編修趣意書」として示してあった8社すべての比較をおこなっている。

4.1.2 「教科書編修趣意書」による編集の基本方針

「東京書籍」の編集の基本方針は、「よりよく生きようとする心を育てる教科書」「確かな道徳性を育てる教科書」「主体的に学習に取り組む態度を育てる教科書」の3点である。具体的には、「よりよく生きようとする心を育てる教科書」として、①主体的に考え、自分の生き方を追求、②いじめをしない、許さない心を育成、③人間関係を築く力の養成を掲げ、「確かな道徳性を育てる教科書」では、①心に響く教材で、豊かな心を育成、②指導内容の重点化による確かな学び、③各教科等との関連、家庭や地域との連携を掲げている。「主体的に学習に取り組む態度を育てる教科書」では、①見通しを持った学習の促進、②学習の進め方と授業の様子の具体化、子供の成長を指導効果の見える化を掲げて編集に取り組んでいる。

「学校図書」の編集の基本方針は、生き方についての考えを深める新しい授業スタイルを提供するた

表1 各出版社の編集の基本方針

東京書籍	1. よりよく生きようとする心を育てる教科書 2. 確かな道徳性を育てる教科書 3. 主体的に学習に取り組む態度を育てる教科書
学校図書	自ら感じ、自ら考える教科書
教育出版	次の時代を切り開いていく資質・能力を身に付ける教科書 考え、議論する姿勢を身に付ける教科書 現代的な課題を読み解く教科書 問題解決的な学習を重視した教科書
光村図書出版	1. 考えたい教科書 2. 語り合いたい教科書 3. 動きだしたい教科書
日本文教出版	1. みずから考えたい！児童の主体的な学びをサポートします 2. 授業に躍動感を！豊かな対話と学び合いのある道徳科の時間にします 3. 社会に根ざした道徳教育を！いま・これからの社会的課題にしっかり対応し、深い学びを提供します
光文書院	見通しをもった自主的・主体的な学習のために 学習効果を高めるための工夫 多様な教材の開発 指導内容の重点化 体験的な学習 問題解決的な学習の工夫 家庭や地域との連携
学研教育みらい	「プラス思考」と「未来志向」を培う道徳教科書 自ら課題を見つける「気付き」を育む 多様な学びの展開で「考える道徳」「議論する道徳」を 最重点テーマは「いのちの教育」 児童の学びやすさに配慮した工夫
廣済堂あかつき	みんなで考え、話し合う 自分を見つめ、考える

表2 各出版社の編集上特に意を用いた点や特色

東京書籍	1. 授業の進め方がわかりやすい教科書 2. 体験活動との関連を図った教科書 3. 子供の生活実態に合わせて教材を配列した教科書 4. 子供たちを取り巻く今日的な課題に対応した教科書 5. 各教科等における道徳教育との関連を図った教科書 6. 特別支援教育・ユニバーサルデザインに対応した教科書
学校図書	アクティブな、新しい授業スタイルをめざして—「よみもの」と「かつどう」、用途を明確にした分冊化—
教育出版	学びやすい 多様性の重視 楽しく学べる紙面
光村図書出版	○道徳との出会い——幼少の連携 ○「学習のまとまり」 ○教材とコラムを組み合わせた「ユニット」 ○「学びの記録」
日本文教出版	1. みずから考えたい！児童の主体的な学びをサポートします 2. 授業に躍動感を！豊かな対話と学び合いのある道徳科の時間にします 3. 社会に根ざした道徳教育を！いま・これからの社会的課題にしっかり対応し、深い学びを提供します
光文書院	見通しをもった自主的・主体的な学習のために 学習効果を高めるための工夫 多様な教材の開発 指導内容の重点化 体験的な学習 問題解決的な学習の工夫 家庭や地域との連携
学研教育みらい	自ら課題を見つける「気づき」を育む 多様な学びの展開で「考える道徳」「議論する道徳」を 最重点テーマは「いのちの教育」 児童の学びやすさに配慮した工夫
廣済堂あかつき	【本冊】 魅力あふれる多様な教材（全34本） 発達の段階に応じた、重点項目と教材配置の工夫 児童の主体的な学習を促す「かんがえよう1はなしあおう」 【別冊】 道徳的諸価値（内容項目）の確かな理解を促す解説 自問と内省へと導き、道徳的思考を深める問い 記入したことすべてが、児童の「心の記録」となる 家庭や地域との連携を促す工夫

めに「自ら感じ、自ら考える教科書—よみもの・かつどうの二部構成で、「考え、議論する道徳」を具現化—」を目指したものである。趣意書では、以下のように述べられている。

教科書を通して、様々な課題をもつ現代社会を生きる子供たちに夢や希望、そして誇りをもって生きることの価値を感得させることをめざしました。そしてそのために、身の回りに起きていることはもとより、自分自身の安易な選択や内面での葛藤に正対する活動場面を設定し、周囲の仲間とともに常に自分を省みる態度を身に付けること、及びそのために求められるめいめいの思慮深さを培うことをねらって編修しました。

また、学校図書の特徴として「よみもの」と「かつどう」がそれぞれ分かれ分冊化されていることである。そのポイントについて、①課題意識をもちアクティブに学ぶ（「よみもの」の「主題」でねらいを確かめ、「かつどう」の「発問」で考えを深める

活動を通して、道徳的価値に迫るとともに、実践につなげる。）、②対話を通じて思慮深さを培う（様々な個性、考えや習慣、価値観の異なる人々と共にある現代社会を生きるために、「対話」を重ねて課題を見出し、様々な角度から物事を捉える力を育む。）、③生きる喜び強い心を育てる（未来への希望をもち、自らの人生を切りひらいていこうとする意欲を高めるとともに、よりよく生きる喜びや勇気を与える教材をそろえる。）、④共生・共助の精神を磨く（多くの人との関わり、社会との関わりの中で、互いに尊重し合い、自らのすべきこと、してはならないことを判断し、「共に生きる」ための心と態度を育む。）ことが挙げられている。

「教育出版」の編集の基本方針は、「次の時代を切り開いていく資質・能力を身に付ける教科書」「考え、議論する姿勢を身に付ける教科書」「現代的な課題を読み解く教科書」「問題解決的な学習を重視した教科書」である。

具体的には、「次の時代を切り開いていく資質・能力を身に付ける教科書」において、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培うこと、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うことを掲げている。次に、「考え、議論する姿勢を身に付ける教科書」では、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うと述べている。

このように、各出版社の基本方針は各出版社の「思い」や道徳に関する考え方が反映された作りとなっている。

4.2 各教科書出版会社のホームページ公表状況

今回は、光村図書、光文書院、学研の比較を行う⁶⁸⁾。なお、この3社を取り上げた理由としては、教科書の特徴や資料が多くホームページに掲載されていたためである。

まず、「光村図書」の教科書の特徴として、学習指導要領の基本的な考えを踏まえたうえで、1年間の学校生活に合わせた構成を行っている。学校生活に合わせて、4・5月は自己を見つめる、6月～9月を他者との関りを見つめる、10月～12月を成長する自己と向き合う、1月～3月はより広く人や社会との関わりを見つめ、命の尊さを最重要事項として年間通して行う。これは学習指導要領で示されている4つの区分を時期に分けて配置していることに特徴がある。また、学習内容や学習過程を明確化するために、児童へのキャラクターによる「呼びかけ」を提示している。また、日常生活や他教科との連携を行い、子ども自身が自分の成長を意識できる仕掛けを作っている。光村図書は、「考えたくなる」「語りたいくなる」「動き出したくなる」教科書として、子どもに命の大切さを伝えることを根底に置いている。教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を用いて深い学びを系統的行うことが出来る工夫がある。内容項目別教材一覧や教材配列一覧、観点別内容と特色を示し、教材別資料として、教材研究や授業づくりに役立つ資料を掲載している。指導時案は、各学年資料分データを一度にダウンロードすることが出来る。また、教材研究に役に立つ資料の提供を会員向けに行っている。

「光文書院」では、年間指導計画例の資料や教材出典一覧が掲載されている。また、内容解説資料を全ページダウンロードできるようにしており、実際に教科書を用いた授業のイメージが湧くようになっている。教科書、教師用指導書と共に、デジタル教科書への対応もある。また、HP上に道徳の評価に関するQ & Aを設置し、児童の見取り方等について記載している。また、教員の授業実践に対する解

説の動画をあげ、その教員の作成した授業内容8つPDFで資料として挙げている。

「学研」では、読みたくなる、考えたくなる、話したくなるをテーマに、プラス思考・未来志向を培う教材を示している。資料としては、道徳のパンフレットや、観点別特色一覧、構成・内容一覧、先人・著名人一覧、年間計画作成資料(手段・ねらい一覧)、年間計画作成資料をダウンロードできるようになっている。また、小学校の道徳科のスタートブックを掲載し、アクティブラーニングやいじめからみたチーム学校の取り組み、特別の教科道徳としてどのように変わるのか、道徳のオリエンテーションの展開例、教材や体験、指導方法等について詳しく記載している。また、学習指導案の作り方から環境づくりまで記載している。同時に、道徳の評価ブックも公表しており、評価のポイント、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価といった評価の種類、効果的な道徳の評価ツール、道徳科の見取りや道徳の評価の年間サイクルまで記載されている。

上記の結果から、教科書作成に至っては、学習指導要領に則るといった点では共通でありながらも、各出版社によって、単元や内容、1年間の流れに差異があった。また、HP上に公開している資料についても、各出版社によって多様であり、指導の側面に重点を置いた。

これらのことは、新しい教科として特別な教科道徳を教える教員にとって、様々な資料を検討する機会につながり、教員の授業を行う上でのサポートになっていると考えられる。

5. 考察

リサーチクエスションの答えとしては、1点目である「特別の教科 道徳」による教科書の内容は、出版社独自の見解もある一方で、一定の水準が維持されているのではないかという点については、学習指導要領の観点や内容・項目は堅持しつつも、各出版社の特色や思いが反映されたつくりとなっていた。2点目の「特別の教科 道徳」として教科書が策定されたことによる教師の教材研究に対して、出版会社がアドバイスを行っている実態があるのではないかという点については、出版会社が様々な視点で教材研究のアドバイスを行っている実態が明らかになった。また、出版社によって掲示・公表しているものや内容に差があり、多くのことを学びたい教員にとっては、参考になる資料が提示されていた。

今回の調査は文献研究であるため、大枠や全体像しかつかめないことに限界があった。今後の研究としては実際に「特別の教科 道徳」を指導している

小学校教員に対して、教科化されたことによる指導の変化についてインタビュー調査またはアンケート調査を行う必要がある。同時に、道徳教育が教科化

されたことにより、道徳の教科書が作成されたことに伴う教員の困難と負担感についてアンケート調査を行う予定である。

文 献

- 1) 共同通信：小学道徳 今月から教科化 教員の工夫が鍵. 福井新聞, 2018年4月1日朝刊.
- 2) 教科用図書検定調査審議会：「特別の教科 道徳」の教科書検定について（報告）.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/tosho/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/08/06/1360229_01.pdf, 2015. (2018.9.20確認)
- 3) 文部科学省：資料7-3 道徳教育の充実に関する提言.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/tosho/105/shiryo/attach/1359087.htm, 2015. (2018.11.4確認)
- 4) 共同通信：道徳で「いじめ」を扱う 中学教科書. 愛媛新聞, 2018年3月28日朝刊.
- 5) 文部科学省：教科書編集趣意書 小学校 道徳（平成28年度検定）.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/tenji/1384939.htm, 2018. (2018.9.20確認)
- 6) 光村図書：小学校 道徳.
http://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_dotoku/, 2018. (2018.9.20確認)
- 7) 学研：みんなの道徳
<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/doutoku/>, 2018. (2018.9.20確認)
- 8) 光文書院：平成30年度版 教科書「小学道徳 ゆたかな心」.
<https://www.kobun.co.jp/tabid/518/Default.aspx>, 2018. (2018.9.20確認)

（平成30年12月12日受理）

A Study on Teaching Material Research in "Special Subject Morality": Actual State of the Introduction Process of the Textbook from 'Textbook Certification'

Maho TANAKA and Kunitomo SAKUMA

(Accepted Dec. 12, 2018)

Key words : teaching material research, special subject morality, state of textbook certification

Abstract

The purpose of this thesis is to clarify how classes on "morality" will change according to the preparation of textbooks on "special subject morality" implemented in primary schools from 2018. Therefore, we present two research questions. The first question is that while the content of textbooks based on "special subject morality" is unique from publisher to publisher, is a certain standard maintained. The second question is whether or not the publishing company advises teacher's teaching material research due to the textbook being formulated as "Special subject morality". As a result, it was clarified that a certain standard was maintained by the textbook adoption, and the publisher's original opinion was shown by using the teaching materials and the themes. The second point was that the publishing company used HP and "Toranomaki" as measures to help teachers study teaching materials, and the meaning and the necessity of teaching materials were shown. In the future, it is necessary to clarify how the class of "special subject morality" is actually developed at the school site, and the problem of the teacher at that time.

Correspondence to : Maho TANAKA

Department of Health and Sports Science

Faculty of Health Science and Technology

Kawasaki University of Medical Welfare

Kurashiki, 701-0193, Japan

E-mail : mahotanaka@mw.kawasaki-m.ac.jp

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.28, No.2, 2019 511 – 517)

